

特別賞

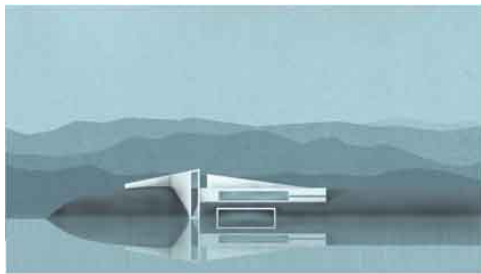
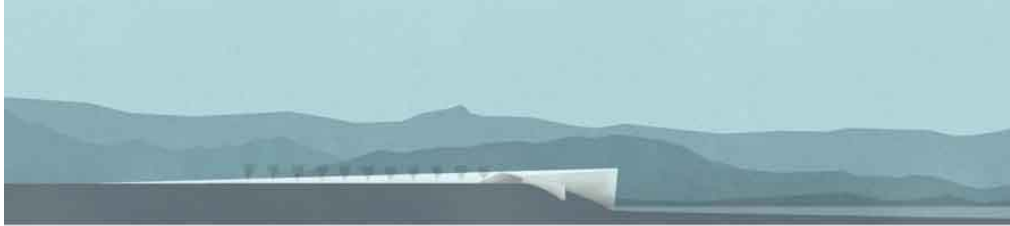


湖の教会

浄化するスイミングプール

馬場 亮平(ばば りょうへい)

千葉大学 工学部 デザイン工学科 建築系

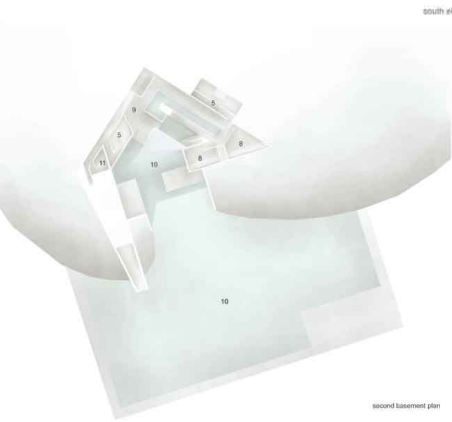


south elevation

取水点から富士に向かう軸は同時に空へと伸び、湖に落ち込む斜面との間に楕円に大きな開口を持つ。その大きな開口は水、山、空のみを同時に切り取る。



scale 1:400



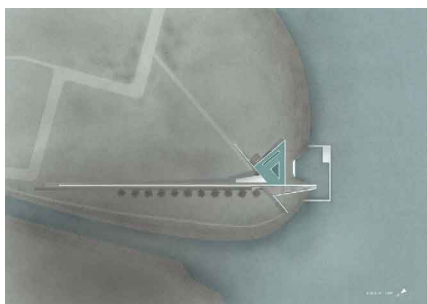
second basement plan



first basement plan

- 1. entrance
- 2. office
- 3. terrace
- 4. program space
- 5. toilet
- 6. gallery
- 7. stand
- 8. locker room
- 9. shower space
- 10. swimming pool
- 11. medical office

scale 1:300



60年代、諏訪における産業都市としての発展の代償に諏訪湖の水質は最悪化し、かつての湖の美しさは瞬間に消え去った。しかしながら人々の浄化活動は積極的であり、徐々にではあるが水質は改善されつつある。現在も続くその活動は長い年月と啓蒙教育によりここに住む人々の潜在意識に常に存在する諏訪湖浄化という共通概念を生んだ。これは一度湖が汚れたからこそ生まれた強い方向性を持つ祈りである。

そこで泳げる諏訪湖を願い、浄化機能を持ったスイミングプールとそこに至るまでの道のりを設計する。いつの日か湖がかつての姿を取り戻した時、プールを囲う壁は解放され本当の意味で諏訪湖と戯れることが可能となり、建築は河と湖をつなぐ河口として場と一体化する。

【講評】日本人は、いつから文明と引き替えに環境を汚すようになったのだろう。やがて、環境保護のプライオリティーが上位にランクされ、湖が綺麗だった時代にはなかった諏訪湖浄化という共通概念が住民たちの中に生まれ、それが脈々と続く時代へと変化してきた。

作者は湖の浄化運動をさらに加速させ、やがて元の綺麗な湖が蘇ったあと、愚かな人間たちが過去に犯した行為の戒めとしてシンボリックな、そして美しい造形物を計画した。それは「展示」という手段ではなく、「体感」という行為

によって根付かせるためにスイミングプールという選択をした。

やがて湖は蘇り、プールと湖を隔てていた壁は取り除かれる。しかし、それで終わりではない。「湖が汚れていた昔は、ここに湖とプールを隔てた壁があったんだよ」と語り継ぐ時代を待ち望む作者の願いが溢れ出る。

湖の浄化、それは人々の祈りである。山並みに溶け込んだ美しいシルエットが目焼きつく秀作である。

(審査員：飯嶋茂信)